

蘭州近況その45 (2016年1月～2016年3月)



中国地図



三亜地図

2016年後期学期

2016年の新学期が始まりました。今期は宿舎の榆中へ2月27日に戻りました。宿舎へ戻ってみると、水道は凍って使えず、暖房は微かで、寒さに震えました。大騒ぎの結果、水道は翌日、暖房は4日後に、なんとか回復してきました。後期学期では、卒論の答弁や北西地区のスピーチコンテストなどが行われます。どんな学期になるか楽しみです。ところで、先学期は作業を終えてから、海南省の三亜へ旅行し、そこから上海を経由して日本へ戻りました。今回はその三亜の様子を書いてみました。

三亜で避寒

先学期は寒かったので、期末の旅行は海南省の三亜で避寒することにしました。暖かいところで海を眺めながらつろごうと思いました。三亜にはホテルがたくさんあるので、旅行社の友人に二、三推薦してもらい、その中から地図を調べて海辺にある老舗の三亜珠江花園酒店に決めました。部屋代は海側と反対側では倍近く違いますが、一泊600円で「海景房」を選びました。

今回は三亜で過ごしてから、蘭州へ戻らず、上海経由で日本に戻ることにしました。1月16日、試験の採点を済ませて、午後の便で三亜に向かいました。予定では広西省の南寧経由で4時間でしたが、1時間遅れて19時ごろ三亜の鳳凰空港に着きました。天気は曇りでしたが、20℃を超えており、ダウンジャケットを着て大きな荷物を抱え汗だくになりました。



三亚珠江花园酒店



部屋から見た南シナ海

飛行場からタクシーで 30 分ほどでホテルへ着きました。ホテルは大東海というビーチに面しています。チェックインすると部屋は 3 階でした。ポーターに案内されて部屋に入って、驚きました。確かに海側の部屋でしたが、窓の外はホテルの広いテラスになっていて、プールやテラスレストランなどがあり、とても海は見えません。さっそくフロントへ電話をして拙い中国語で部屋を変えろと交渉しました。押し問答の末、フロントから 7 階と 6 階の部屋が空いているが追加料金がかかると言われました。いくらかと聞くと、1 日 250 元だそうで、高いと怒ると、150 元にまけてくれました。まあ仕方がないので、それで手をうって 7 階の部屋へ移りました。部屋はあまり広くありませんが、海側の窓の外に小さなテラスがついており、そこに小テーブルと椅子が 2 脚ありました。さすがにテラスに立つと南シナ海が眼前に広がります。



ホテルの前の大東海ビーチ



ビーチ沿いのレストラン

20時を過ぎていましたが、夏服に着替えて、夕食を食べに出かけました。ホテルの近くの広場にフードコートがあり、地元の店が軒を並べていました。初日の夜は生ビールと海鮮チャーハンでお腹を満たしました。



人工の鳳凰島にある高層ホテル



鹿回頭山から見た三亜の市街

三亜を遊覧

海南省、あるいは、海南島は中国の最南端にあり、南シナ海の北西、ベトナムのトンキン湾の東端になります。面積は3.5万平方kmで、ほぼ台湾と同じ大きさがあり、人口は約900万人です。三亜市は海南島の南端にあり、人口74万人、東方のハワイと呼ばれ、中国で最も長寿地区だそうです。

偶然、2年前に卒業した教え子が海南島の海口市でガイドをしており、行く前に彼女に連絡をとって、1日だけ案内を頼みました。彼女とホテルのロビーで9時に待ち合わせ、まずホテルの近くの鹿回頭公園へ行きました。鹿回頭公園は三亜湾の東端の小高い丘陵にある公園で、三亜湾が一望できます。山頂から見た三亜の威容には驚かされました。白い砂浜が三亜湾に沿って遙か遠方まで伸びており、そのビーチに沿って高層ホテルとマンションが立ち並んでいました。さらにビーチから少し奥に入った三亜の市街も高層ビルが林立していました。三亜湾には人工の鳳凰島が浮かび、その上にはヨットのセールをした超高層ホテルが5棟建てられていました。三亜は高層ビルで埋め尽くされているようでした。ガイドの彼女に聞くと、三亜の観光シーズンは10月から4月までだそうです。夏は暑くてシーズンオフだそうです。北京や東北の老人たちが仲間同士でマンションを借り、冬を過ごすのが流行だそうです。そして、特に混雑するのが春節の時で、ホテル代から食料品まで三亜の物価が跳ね上がるそうです。超高層のホテルやマンション群に圧倒されました。

昼は山を下り彼女の案内で三和の市街へ出て、海鮮レストランで食事をしました。カニやエビはバカ高いので敬遠し、貝の煮物、地元の野菜、三和名物の蒸し鶏を頼みました。蒸し鶏は中華でよく出る冷菜ですが、違うのはエスニック風のタレにつけて食べます。これに鶏のスープで炊いたご飯が付きますが、この料理はシンガポールでよく食べました。東南アジア風なのでしょうか。

午後は三亜湾の砂浜を散策しました。白い砂、ブルーの海、海岸に沿って椰子の木が植えられ、遊歩道が続きます。まるで、ハワイのワイキキのようですが、海岸線は数キロに渡って続き、ワイキキより長く感じました。砂浜をしばらく歩いてから、路線バスに乗って三亜湾の西端にある天涯海角公園に行きました。湾の西端が岩場で、砂浜の中に丸い岩がたくさん突き出ていますが、その中で特に大きな岩を天涯角と言い、名所になっています。昔は只の岩場で、誰でも自由に見物できたようですが、今では付近一帯がきれいな公園に開発され、高い入場料を払わないと見られなくなりました。

公園で思わぬ時間を使って、市街へ戻るともう 18 時を過ぎていました。案内をしてくれた彼女が海口市へ帰らなければならないので、ホテルのそばで彼女と別れました。海口と三亜には高速列車が走っていて、1 時間半ほどで戻れるそうです。夕食はまた昨日のフードコートへ行って、カキと小ガニ、タコを焼いてもらって食べました。



数キロ続く三和湾ビーチ



海水浴でにぎわうビーチ

亜龍湾を観光

三亜には大きなビーチが三つあります。泊まったホテルに面した大東海、西側にある三亜湾、少し離れた東側の亜龍湾です。亜龍湾は三亜の市街地から離れた郊外にあるので、水がきれいだと言われます。ホテルの近くの幹線道路に亜龍湾へ行く路線バスが走っており、それに乗ると 1 時間ほどで着きました。ビーチは 2, 3 キロで、背後には緑豊かな丘陵が続きます。ここは高級リゾートだそう

で高層ビルは一つもありません。ホテルも低層のコテージ風に作られ、丘陵のなだらかな斜面にはゴルフ場付きの別荘村が散在していました。確かにビーチの水は大東海や三亜湾より透明でしたが、沖縄には及ばないと感じました。砂浜を散歩し、海辺の茶店でビールを飲んで、また路線バスでホテルへ戻りました。

午後は部屋のテラスでのんびり海を眺めていましたが、せっかく三亜に来て泳がないのも残念なので、ホテルの前のビーチで少し泳ぎました。ただ生憎、天気は曇って、気温も 20℃ほどでしたので、海水浴には少し寒かったです。そうそうに切り上げて、付近の土産物屋などをひやかしました。最後の夕食はホテルのテラスレストランで海鮮バイキングを食べました。



東にある亜龍湾ビーチ



亜龍湾は高層ホテルがない

三亜慕情

翌朝、朝食をすませてからホテルを出て、11時の飛行機で上海へ向かいました。蘭州から三亜まで4時間でしたが、三亜から上海まで3時間でした。正味三日間の滞在でしたが、先学期の疲れを癒すことができました。厳寒の蘭州から夏服で過ごせる暖かいところへ来られたのが何よりでした。天気は曇りでありよくありませんでしたが、それでも 20℃ちかくはありました。

帰ってから調べてみると、第二次大戦中、海南島は日本が占領していました。1939年日本軍が攻略し、終戦まで7年間日本軍の軍政下にあったようです。海南島は日本軍の南進のための重要拠点であり、また、鉄鉱石など鉱物資源に恵まれていたようで、日本の鉱山会社も何社かが海南島へ進出していたようです。軍司令部が三亜に置かれていたと聞きましたが、現在の三亜からはその面影は全く見られませんでした。

それにしても現在の三亜の発展ぶりには驚かされました。あれだけの高層ビルはちゃんと人で埋まっているのでしょうか。ガイドの教え子に言わせると数年前には日本の観光客も多く、亜龍湾のあたりでよくゴルフを楽しんでいたよ

うです。それが、最近ではめっきり少なくなって日本語のガイドの需要が減っているそうです。その代わり、ロシア人の観光客が増えているそうです。もちろんシーズンには中国本土からの観光客がたくさん押し寄せるとは思いますが、彼女によると、タイやマレーシアなど東南アジア諸国と競合しているようです。上海や北京の人々からすれば、距離的にはさほど違いがない上に、東南アジアの方が物価ははるかに安いとのこと。しかし、確かに物価は少々高めですが、観光地として快適な環境が整い、過ごしやすいく所だと思いました。次回はマンションでも借りてもっと長く滞在してみたいものです。



大東海ビーチのマンション群



海南島の花 三角梅 (ブーゲンビリア)
以上